

## 道内のツツジ，シャクナゲについて

問 北海道で普通にみられるツツジ，シャクナゲにはどんなものがあるか，  
また苗のつくり方をお知らせください。 (函館市 S 生)

答 I 北海道で咲くツツジには自生しているものと園芸種のものがある。

自生するもの

### 1. エゾムラサキツツジ

道内の山地に最も多く自生しているツツジで，春にさきがけて雪どけ後間もなく紫紅色の美しい花が咲き，樹は丈夫で庭木等としてよく生育する。増殖には結実がよくて実生も簡単に行なわれ，挿木も可能である。

### 2. ヤマトツツジ

道南地方に数多く自生している美しいツツジで，初夏新緑の山々を真赤に染める美しさはすばらしい。樹高2mぐらいに達し，灌木で落葉性である。花は赤色を基調とするが，場所により色彩はいろいろな変化をとめない多彩となる。道内産のものは，恵山のツツジの花が鮮やかで美しいことで有名である。本種も実生，挿木による増殖ができる。なお，盆栽仕立にしても立派なものができる。

### 3. ムラサキヤシオツツジ

道央地方の樹林中に生育しているが，数多くはみられない。落葉灌木で高さ1～2mで，6月上旬に開花し，色は濃桃色から紅紫色で，ヤマトツツジ程多くの花をつけないが新鮮な美しさがある。深山に自生している関係か，木が弱いので，庭園に多く植えられていない。

### 4. サラサドウダン

落葉灌木で，ツツジの類としては大きくなる木で高さが5mにも達する。花は鐘形淡黄色で，暗紅色の条があり，花の大きさは8～12mmで6月下旬に開花する。道内では渡島地方に自生している。庭木として植えているもののほとんどが山引苗である。

### 5. エゾイソツツジ

道内各地に自生している中では，きわめて小型である。花は小さな白色総状花序で，手まりのようで美しい。鉢に作るとよくできて，花もよく咲くが，難点は水切りに弱いことである。灌水を充分することが大切である。

道外から移入されたもの

### 1. レンゲツツジ

本州各地に自生しているが北海道には自生のものはない。やや園芸化し，花の色は黄色とかば色，紅色，真紅色があり，いろいろ人工的に美しい花が作り出されている。花は大きく径5cm程で春芽の開序と同時に開花し，数も多く着生し美しい。枝は根もとから多く

るので、株分けで容易に増殖出来る。また、実生や、挿木でも増殖が容易である。かなり水を好む性質なので灌水に注意することと、葉がうすく病害虫に侵され易いので防除も大切である。

## 2. クロフネツツジ

花は大きく、紫がかった淡いピンク色を呈し、目の覚めるような鮮やかな美しさで、春芽の動く前に開花する。木の高さは3mにもなるが、小さくてもよく花をつける。丈夫な木で寒さにも強く、道央地方では露地で冬囲いなしでも越冬する。増殖方法は実生法がよい。

## 3. ミツバツツジ

落葉灌木で樹高は4mに達し、花は紫紅色で径3～4cmの1～3花を頂生し、花期は5月中旬である。北海道には自生していないが本州では林内に自生している。木は割合に丈夫で札幌附近ではそのまま越冬することができる。庭木として植えられているのはごく稀である。

## 4. ミヤマキリシマ

九州を代表する野生ツツジで、樹高はきわめて低く、枝は横に張り、細密で葉は小さく、冬季には殆んど落葉する。花は新葉の展開後(5月中旬)枝上にびっしりとつき、満開時は美事である。花は小さく径2cm位で筒の部分が短かく花卉はよく展開している。花色は紅紫色の濃淡で、斑紋の現われないのが特徴である。挿木をするとよく根を出すので主に挿木で繁殖するが、時には実生栽培も行なわれている。

## 5. クルメツツジ (キリシマツツジ)

代表的な園芸種で、はじめ小霧島、キリシマツツジなどと呼ばれていたが、久留米において多くの品種が発達し、明治時代に多くの苗木が養成され、久留米産ツツジが広く知られるようになった。明治の末期頃からクルメツツジの名称が用いられた。品種が非常に多く学名のついたものでも20種で学名のないものは220種余ある。花の色、形、樹性にも差異があって美しいものが多い。寒さにも強いものがあり、道央地方で、そのまま越冬するものと、冬囲い程度で越冬するものがある。増殖はもっぱら挿木により床挿または箱挿をする。

## 6. サツキ

園芸植物で、常緑灌木。品種は非常に多く220種余ある。花季は6月中旬頃で花の色、形、大きさ等も雑多である。本州方面では盆栽仕立にして観賞しているが、北海道ではあまりみかけない。寒さに強いものもあり冬囲い程度で越冬するものもある。増殖はもっぱら挿木で行なわれる。埼玉県の安行が古くから産地として有名である。

## 7. ヨドガワ

高さ2～4mになる大形な落葉灌木で、花は枝端に2～3個つき、花冠は雄葉が瓣化して

重なった重瓣で紅紫色を呈し大型の花で美しい。増殖は挿木，または取木をする。

道内でみられるシャクナゲのほとんどが自生しているものであるが，たまに西洋シャクナゲをもっている人がいる。主なシャクナゲにつぎのものがある。

#### 1. ハクサンシャクナゲ

常緑の灌木で大きなものは高さ4 m，径20cmのものも珍しくない。北海道全域に自生し花は7月上旬に咲く，花色は純白から淡紅色，紅色，淡黄色のものがあるので別の名をシロシャクナゲ，ウスベニシャクナゲ，ウスキシクナゲなどとよんでいる。花の色は環境によってかわるので分類に使用することは問題がある。

北海道では日高山系に多く自生し，エリモシャクナゲなどの名で知られている。公園，あるいは一般庭園には欠かせない木であるが，花よりも濃緑の葉が美しい。日射のつよいところは生育がわるいので若干日蔭になるようなところに植えるとよい。

#### 2. キバナシャクナゲ

高山に自生し，常緑の灌木で高さ0.5～1.0mの伏生木である。標高1,200 m以上の山ではどこでもみられる。分布は東北地方からシベリヤにまで及んでいる。花の色は黄色と淡黄色があり，可れんで美しい花をつける。古くは樹脂から抹香を作ったこともあるという。よく種子をつけるので実生増殖がかんたんである。さらに挿木もかんたんにできる。盆栽として珍品化されている。

(樹芸樹木科 中内武五郎・田端喜久二)

答Ⅱ ツツジ，シャクナゲ類を増やすには株分け，取木，挿木，実生のどれも用いられるが，ここでは比較的簡単な実生法についてのべる。

山野に自生しているエゾムラサキツツジ，ヤマツツジ，ムラサキヤシオ，サラサドウダン，ハクサンシャクナゲ等はよく結実する。種子の採取時期は，9月下旬からはじまりおそいものは10月中旬のものもある。種子はきわめて小さく1g当りの粒数は4,000～9,000粒ぐらいある。特に採取時期を失しないようにする。

#### まきつけ

種子が上記のように小さいので，まきつけには綿密な作業をしなければならない。木の丈夫なエゾムラサキツツジ，ヤマツツジ，レンゲツツジは露地まきで養苗することができるが，そのほかはフレームを使用しなければならない。

#### 1. 露地まき

床作り巾1 mのあげ床とし，表土5 cmは火山砂，または川砂にピートモス20%，畑土10%を混ぜたものに肥料1 m<sup>2</sup>当り完熟堆肥3 kg，油粕50 g，過石20 g，加里5 gを基肥として施し，表面を少し円形になるように填圧して床作りをする。

まきつけは4月下旬頃が適期である。種子が小さいので細砂などを混ぜてまくと均等にまきつけができる。覆土はピートモスの粉に細砂を混ぜたものを用い，種子がかくれる程度に

ふりかける。まき終わったら覆藁をし、発芽しはじめたら覆藁を除き、寒冷紗で日覆をする。発芽しはじめたものを一度乾燥すると駄目になるので、寒冷紗の覆をすると同時に、乾燥のはげしい時には灌水をする。

#### 発芽後の管理

苗はきわめて小さいので雑草は小さいうちに取り除かないと苗をいためるので、大きくならない内に手まめにとらなければならない。また、消毒も立枯病予防のため1～2ヶ月に1回ウスプルンで消毒し、その他害虫の駆除にも注意することが必要である。

#### 間 引

秋までに1.5～3 cm位に伸びるので、その間2～3回こんでいる部分は間引を行なう。苗床は翌年すえおきとするが、すえおき床の管理はまきつけ床の管理とほぼ同様である。追肥は月に1回位プラントフードの1,000倍液を散布する。9月も中旬をすぎると日ざしも弱くなるから、十分に日光をあてて根ののびをうながして健苗をつくる。

## 2. 室内まきつけ

室内、ハウス、温室内では集約的に栽培しなければならない。露地栽培の不適なツツジやシャクナゲなどは箱まきつけがよい。箱の大きさは41cm×60cm、高さ12cmのものが扱いやすい。用土はまず箱に7 cm位荒目の火山砂を入れ平にならし、5～6 cmのフルイを通したミズゴケを一度水にひたして水切りをし、量は平手で押して2 cmぐらいが適当である。まく種子の量はあまり多くなく、少なめがよい。

#### 植 替 え

発芽した苗は1日2時間程度の日照でよく、あとは寒冷紗などを使って日照をさけておき、5月にはいってからプラントフードの1,000倍液を1回散布する。秋9月中旬に1回目の植替をする。用土は火山砂にミズゴケ1%で、箱または鉢に植え込む。植替が終わって10日ほどしてウスプルンまたはボルドー液などで消毒する。月に1回位プラントフードの1,000倍液を施してやるとツツジ、シャクナゲの若干形の整った苗になる。

(樹芸樹木科 田端喜久二)